

# iPad 殺人事件



aicyu

aicyu

## アプリその1：IHコンロ

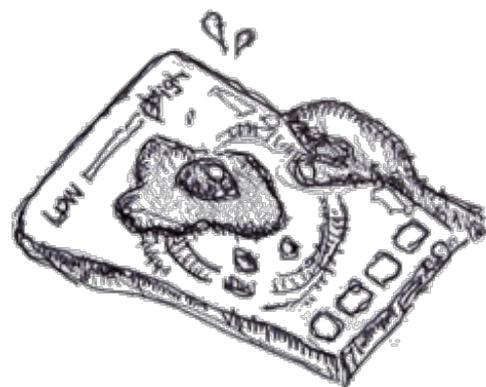
「そうだね、この国ではiPadを持っていない者など居ない。生まれたばかりの赤ん坊だって、出生届を出したら即日支給されるんだ。」

そう言うと、マスターはサクラ色の卵を片手で割った。

卵の中身は、新品のiPadの上にジュッと音を立てて落ちた。

これがウワサの“IHコンロ”アプリケーションか…。

調理器具にまでなってしまうなんて、さすが、“魔法のようなデバイス”というだけのことはある。しかし、普通の主婦がレシピサイトを見ながら料理するには些か使いづらそうだ。食材で画面が見えなくなってしまうではないか…。



そんなときはどうしたらいいの？

と質問しようとしたとき、ランコロン…、また一人、お客がやってきた。

「いらっしゃいま……えっ?!」マスターの声が驚きが変わった。

その客は、目も覚めるような鮮やかな赤色のiPadを頭に乘せて、ボクたちのいるカウンターに向かってきた。右手には黒革のビジネスバッグ、左手には白い犬を抱えている。

「お客さん、困りますよ、iPadをハダカで持ち歩いては…。ちゃんと、“アイ・パクン”に入れてくれなきゃ…。」

マスターの言葉に、ボクは思わず、「ツッコミどころが違うだろ!」と言いそうになった。

問題はソコじゃない! まずは、なぜ赤色のiPadを持っているのか?というトコロだ。

赤いiPadは伝説のiPadと呼ばれ、ボクの国では人間と共存することはできない。もちろん、この国でも同じはずだ。

次に、なぜiPadを頭に乘せているのか?だ。

しかも、絶妙なバランスで…。ふらふら左右に揺れてはいるものの、手で支えなくてもちゃんと頭に乘っている。



そして、白い犬…。

料理屋に犬を持ち込むなんて…。

あ、よく見ると、毛が生えていないではないか。

もっとよく見ると、なんだかゴツゴツしているぞ。

これは犬ではない!

ワニだ! 白いワニだ!!

Handwritten text, possibly a signature or name, written in cursive.

..... つづく .....